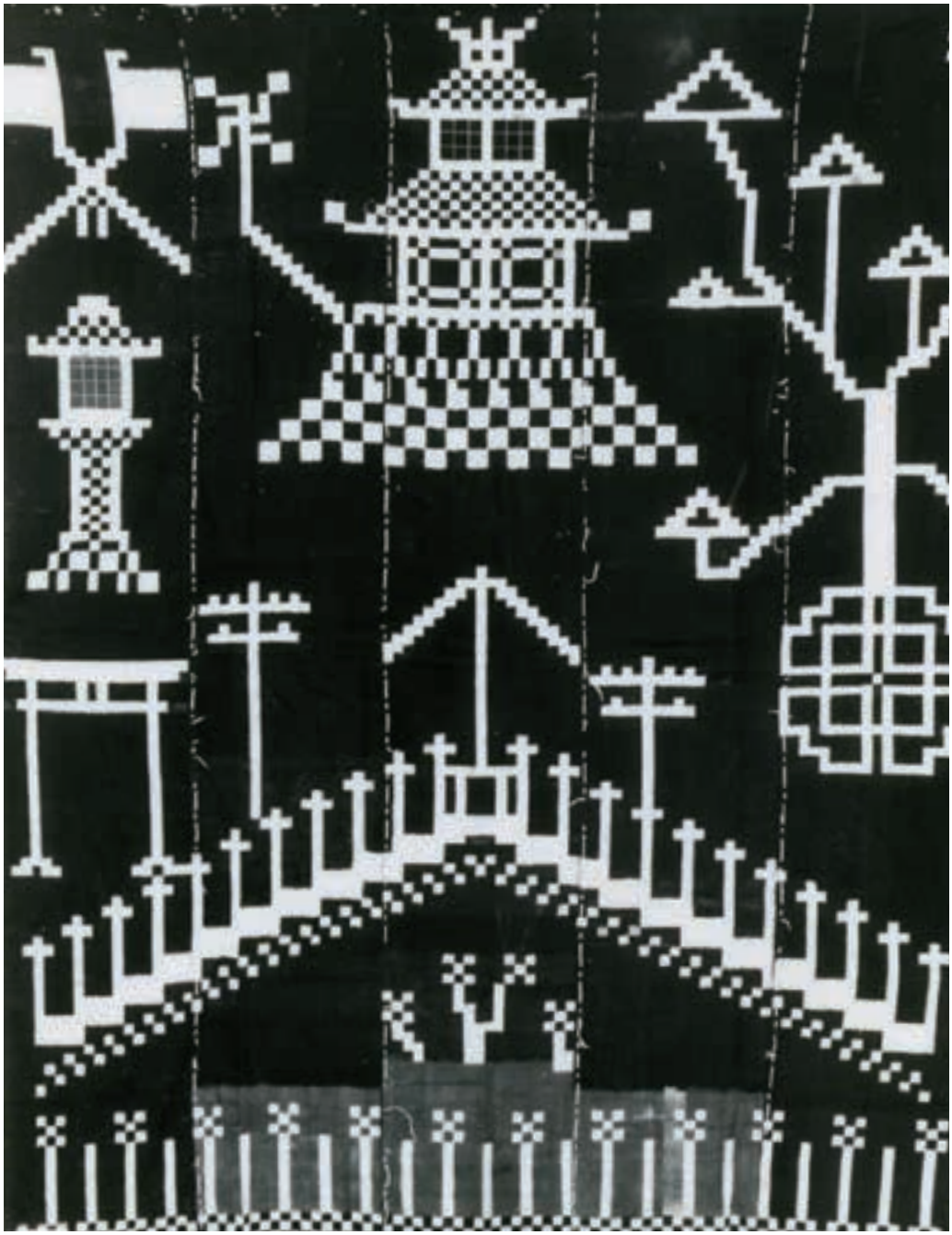
特別企画展

藍と白の伝統　久留米絣の世界



平成 27 年 4 月 28 日（火）～5 月 30 日（土）
９：３０～１７：３０（日・祝日は休館）
＊入場料無料
問い合わせ先　０３－３２３７－２６６５
特別協力：公益財団法人久留米絣技術保存会
重要無形文化財久留米絣技術保持者会

共立女子大学　神田一ツ橋キャンパス本館１階展示室
東京都千代田区一ツ橋２－２－１
交通：東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・
都営地下鉄新宿線／「神保町」駅下車 A9 出口
から徒歩１分
東京メトロ東西線／「竹橋」駅下車１ｂ出口
から徒歩３分

特別企画展

藍と白の伝統 久留米絣の世界

久留米絣は、江戸時代後期以来、現在の久留米市を中心に、主に農家の副業として長く行われ、木綿の絣としては最も知られたものの一つです。以来、多少の盛衰を経ながらもその生産においては常に安定した地位を維持し、現在に至っています。また、木綿の紺絣としては、技術面だけでなく意匠の面においても先進的な役割を果たし、他の産地に及ぼした影響も少なくありません。一方、伝統的な技法の維持にもつとめ、途中、糸が手紬糸から紡績糸に変わったものの、その生産工程は昭和３２年、国の重要無形文化財に指定されています。

このたび公益財団法人久留米絣技術保存会、重要無形文化財久留米絣技術保持者会の皆様のご協力を得て、伝統的文化財としての明治から昭和初期にかけての久留米絣と、重要無形文化財技術保持者による作品を展示することができるようになりました。

藍と白の対比が作り出す清々とした味わいと、絣際に見られる白と紺との溶け合いが生み出す穏やかな模様表現を、どうかお楽しみください。

主な作品

木綿地城と山道模様布団地	明治初期
木綿地菱繋ぎ模様絣裂	明治 10 年
木綿地菊水蝶千鳥模様絣裂	明治 18 年頃
木綿地鯉に井桁模様絣裂	明治中期
木綿地菊水模様絣裂	明治中期
木綿地福寿文字鶴亀模様絣裂	明治中期
木綿地三つ枡と花模様絣裂	大正中期

森山虎雄作　「68 立蚊絣」
松枝哲也作　「宝づくし」
山村健作　　「明日への径」
池田光政作　「華てまり」
小川内龍夫作「雪柱の輝き」
山村省二作　「山風花」
冨久公博作　「耀う」
野村篤子作　「光と影」
緒方日出夫作「梅園」
田中寛作　　「菊日和」
佐藤博美作　「春を待つ」